

学校だより ゆきやなぎ

令和5年10月 京都市立陵ヶ岡小学校 校長 園部 久美

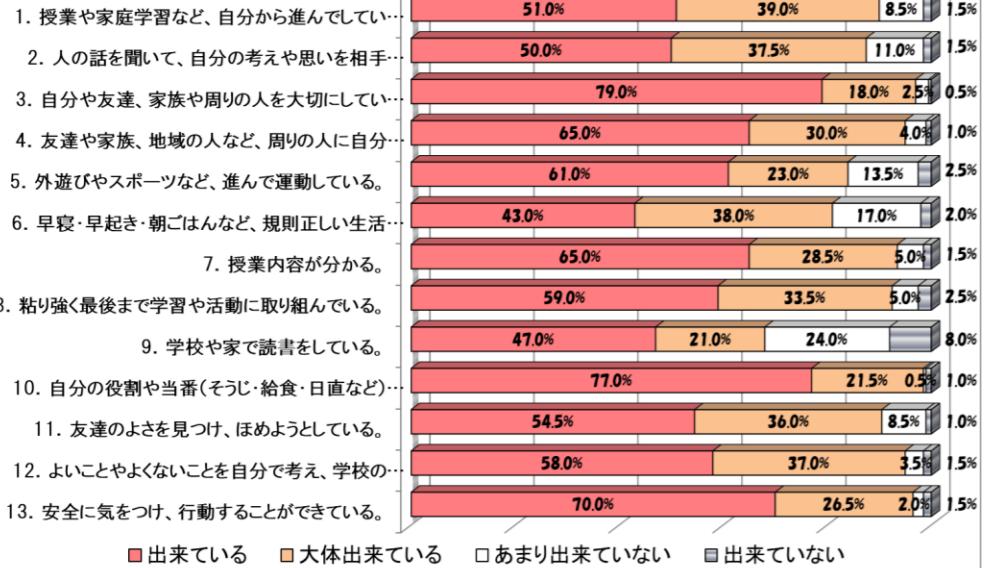


10月臨時号

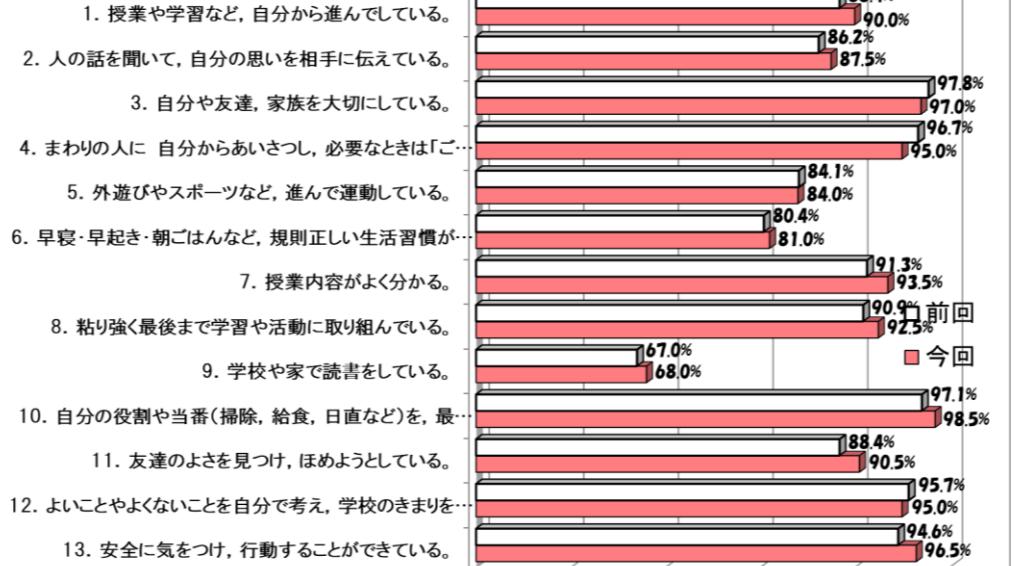
学校教育目標

自ら探究し、つながり合い、未来を拓く陵ヶ岡の子
～探究力・人間力・自分力(3Motto)を育む陵ヶ岡教育の創造～

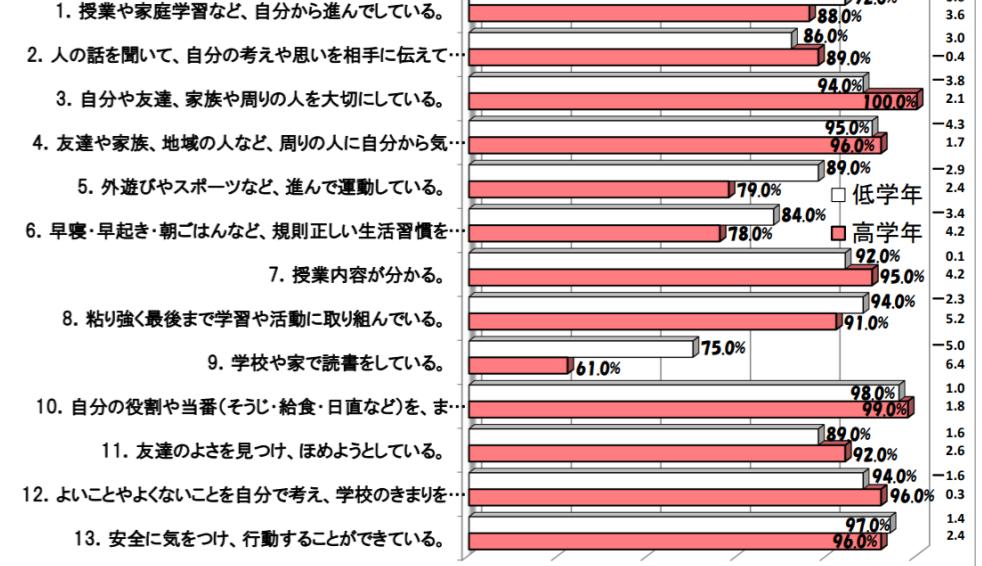
令和5年度 第1回 児童



前回(昨年度12月)と今回の児童結果比較 (出来ている+大体出来ている)



令和5年度 第1回 低学年と高学年 (出来ている+大体出来ている)



☆児童全体のアンケート結果より

前回12月・今回7月に調査した児童全体の結果で「出来ている」「大体出来ている」の割合が共通して9割を超える項目は、以下の7項目です。

- ・「3.自分や友達、家族や周りの人を大切にする」97.0% (前回比-0.8)
- ・「4.挨拶、謝罪、感謝の言葉が言える」95.0% (前回比-1.7)
- ・「7.授業内容がよく分かる」93.5% (前回比+2.2)
- ・「8.粘り強く最後まで取り組む」92.5% (前回比+1.6)
- ・「10.役割や当番を最後までがんばる」98.5% (前回比+1.4)
- ・「12.善悪の判断、きまりを守る」95.0% (前回比-0.7)
- ・「13.安全に気をつけて行動する」96.5% (前回比+1.9)

また、前回との比較において、下記2項目が9割を超えたました。

- ・「1.授業や学習など、自分から進んでしている」90.0% (前回比+1.6)
- ・「11.友達のよさをほめようとしている」90.5% (前回比+2.1)

13項目中9項目が9割を超えていることは本校児童の強みやよさであり、学校生活を主体的に過ごしている児童が多いと考えられます。

一方、前回・今回共に7割を切ったのが、下記項目です。

- ・「9.学校や家で読書をしている」68.0% (前回比+1.0)

今後も様々なものがデジタル化されるからこそ、一定の分量の文章を読み解く力は、これから社会を生きる児童に欠かせない資質・能力です。児童を読書の世界へと誘う工夫が一層求められます。

また「2.話を聞き、考えや思いを伝える」は次のように推移しています。

R3年度① R3年度② R4年度① R4年度② R5年度①
88.0% ⇒ 86.2% ⇒ 91.3% ⇒ 86.2% ⇒ 87.5%

学習指導要領の求める「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る上で「対話力」の向上は欠かせません。言語活動を通した指導を重ねる中で、相手の話を聞いて、どの児童も臆することなく自分の考え方や思いを伝える姿勢を育むよう、今後も工夫が求められます。

☆低学年と高学年の比較

*低学年と高学年共に数値が9割を超える項目

- ・「3.自分や友達、家族等を大切にする」低:94% 高:100%
- ・「4.挨拶、謝罪、感謝の言葉を言う」 低:95% 高:96%
- ・「7.授業内容が分かる」 低:92% 高:95%
- ・「8.粘り強く最後まで取り組む」 低:94% 高:91%
- ・「10.役割や当番を最後までがんばる」 低:98% 高:99%
- ・「12.善悪の判断、きまりを守る」 低:94% 高:96%
- ・「13.安全に気を付けて行動する」 低:97% 高:96%

本校は「探究力・人間力・自分力」を育みたい資質・能力として設定しています。「3.自分や周りの人を大切に」したり、「4.相手へ自分から声かけ」ができたりするのはまさに「人間関係を形成する力」即ち「人間力」であり、これらがいずれも高いことは「誇るべき児童の姿」であると言えるでしょう。

また、「10.役割や当番を最後までがんばれる」「12.善悪の判断・きまりを守る」「13.安全に行動する」ことは、集団生活の中で自分を律し、自己管理ができる事を示唆しています。こうした「自分力」に関わる項目についても、肯定的に自身を見つめる児童の姿を頗もしく感じます。

*低学年と高学年いずれかの数値が8割を切る項目

- ・「5.外遊びやスポーツなど進んで運動」 低:89% 高:79%
- ・「6.早寝・早起き・朝ごはん」 低:84% 高:78%
- ・「9.学校や家で読書」 低:75% 高:61%

高学年は、休み時間に委員会活動などの役割があったり、放課後買い物が忙しくなったりし、運動や規則正しい生活の遂行が難しくなりがちです。一方で、学齢期の児童が心身共に健やかに学校生活を送るために、適度な運動に加え、「早寝・早起き・朝ごはん」は欠かせません。学校・家庭それぞれにできることを工夫し、その時間を保証できればと思いますので、今後ともご協力いただければ幸いです。

読書については、読みたくなるような雰囲気づくり、短時間でも本を手にする時間の確保、読後の楽しさを共有しあえる交流の場などの設定を工夫し、本好きな児童が増えてくれることに期待します。

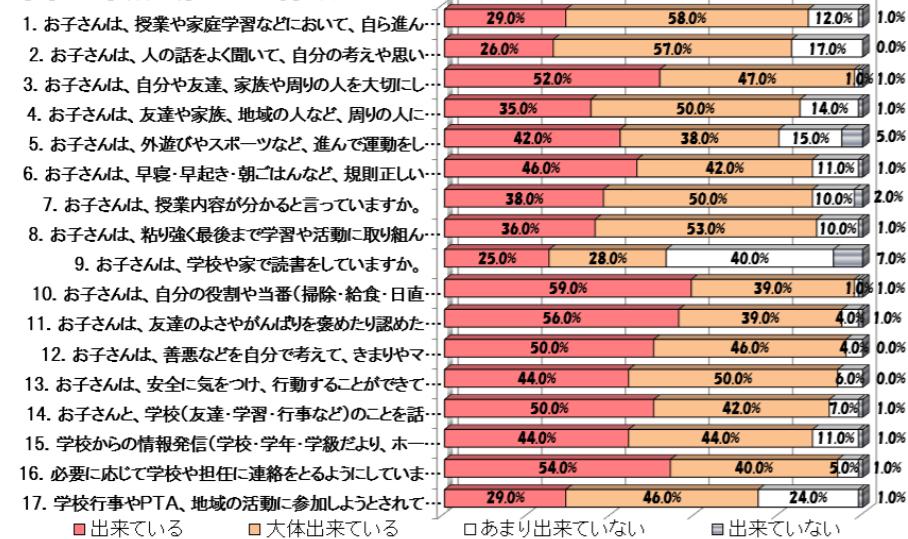
よさや課題は個人や発達段階に応じて異なります。本校の傾向を把握した上で、お家でのお声かけ等の参考にしていただければ幸いです。

子どもを共に育む
京都市民憲章

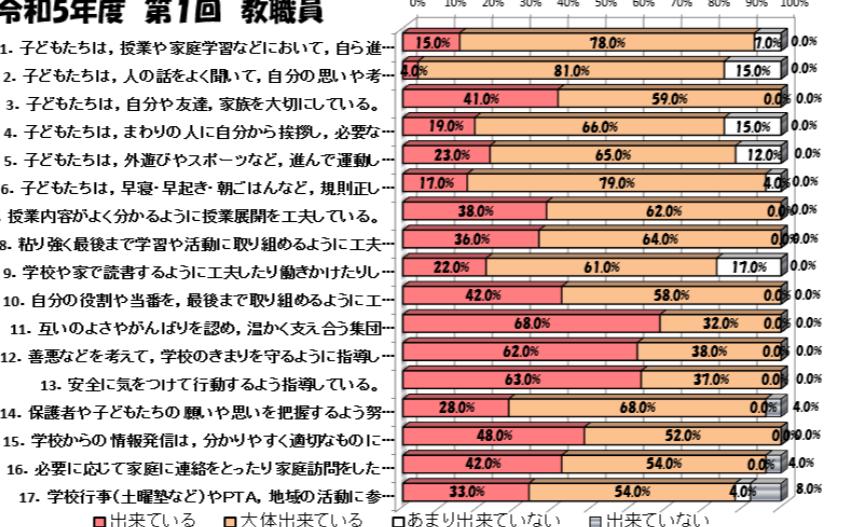


社会のあらゆる場で実践し、
行動の範を広げましょう！

令和5年度 第1回 保護者



令和5年度 第1回 教職員



☆保護者・教職員アンケート結果より

児童の回答と大きく差がみられたのは、「4.挨拶、謝罪、感謝の言葉が言える」です。児童95%に対し、保護者の皆様 85%、教職員も85%となっています。児童が「おおむねできている」と思っていることでも、大人から見ると、もっと相手意識をもって挨拶する姿を期待しているのが分かります。

児童の回答で課題として挙げた「読書」については、児童68%に対し、保護者の皆様53%、教職員83%となっています。保護者の皆様へは「読書をしているか」、教職員へは「読書するための工夫や働きかけをしているか」と尋ね方が異なることを鑑みても、学校で読書の時間には読んでいるものの、時間外での自発的な読書にまでは至っていないことがわかります。更なる工夫が必要です。

保護者アンケートの「14.お子さんと学校のことを話す」が92%と9割を超えていることもうれしいことです。HPやスクリレなど多様なツールを用いて発信する情報をご覧いただき、会話のきっかけとしてご活用いただければ幸いです。

☆保護者アンケート記述欄より

紙面の都合上、保護者の皆様のご意見を抜粋・集約し、紹介します。共感される内容もあるかと思います。

- 環境に少しずつ慣れて、のびのび過ごせていると思います。
- 学校の行事や縦割り活動など他の学年との交流の場も多く、とても充実しているようです。
- 思春期真っ只中で、反抗期も訪れて、心がとても不安定なので見守ろうと思います。
- PTAのあり方も、関係が良く気持ち良いです。できる限り色々なことに協力したいと思います。あと登校時の見守り隊の方々に、毎日感謝しています。
- ストレスも感じているようで家でかんしゃくを起こすこともあるので、なるべく話を聞く時間を設けていこうと思います。
- 中学年になり、放課後、学校に残って遊んだり宿題をしたりして過ごせることを喜んでいます。学区内で子供が安全に集まる場所は少ないため、学校内でそのような場所や機会を提供していただけるのは助かります。
- 集中力が持続するよう、また見直しを必ずするよう、家庭でも声かけをしていきます。
- 参観日やミュージックデイの観覧を通じて、学年全体が一丸となって目標に進む強さを持っていることを実感しています。学年の一員として役に立ちたい、成功に導きたい、という意識が芽生えてきたことを嬉しく思います。

めざす子ども像 「探究力」「人間力」「自活力」 3つの力で未来を切り拓く子どもたち

☆今後の方向性と取組

- 全体的に落ち着いて学ぶ様子が見られます。今後も「粘り強さ」「人やものとのかかわり合い」「意見交流のある協働」をベースにした授業づくりを大切にし、言語活動の充実を図る学習環境、安心して自己表出ができる学習集団を目指し、取り組みます。
- 15分程度の「読書タイム」「チャレンジタイム」を今後も大切にし、基礎基本の定着、落ち着いて読書や学習に取り組む姿勢や習慣の形成等をめざして取り組んでいきます。また、GIGA端末も一層活用していきます。
- 「読書」については、読書タイムや図書室の時間の確保、学習活動で活用する機会を設ける等、日常の取組を継続していきます。学校司書や図書館教育に携わる保護者の方々・外部団体等とも連携し、本への興味・関心を広げていけるよう取組や環境整備を進めてまいります。ご家庭におかれましても、読書習慣形成に向けた働きかけをお願いします。
- 「規則正しい生活習慣の形成」は、学校生活の基盤であり、継続した働きかけが大切です。今後も「早寝・早起き・朝ごはん」を大切にしながら8時~8時20分に登校できるようご協力お願いいたします。

スクリレ等を活用したFormsでのアンケート収集へのご協力、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

令和5年度全国学力・学習状況調査結果

4月に、6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について結果がまとまりました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、主体的・対話的で深い学びや個別最適な学び、挑戦心・自己有用感に関する調査も実施されました。調査の結果から、本校の子ども達の状況をお伝えします。

○国語科の結果より(概要)

情報の扱い方に関する知識・技能面が特に優れていました。これは、日頃の授業の中で複数の資料やデータを用いて、資料やデータを根拠に話し合ったり、自分の考えを表現したりしている成果だと考えられます。話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えながら聞く力には弱さが見られました。

○算数科の結果より(概要)

図形の性質や意味を問う問題の正答率が高かったです。日々の授業の中で、具体物を操作したり、アニメーションを用いた動画を活用したりすることが結果につながったと考えられます。

「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る問題の正答率が若干低かったです。「以上」「以下」「未満」の数の扱い方が定着していなかったこと考えられます。

○児童質問紙より

「自分にはよいところがありますか」という質問に対し、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えた本校の児童は約98%で、京都府や全国の値と比べると約15%上回っていました。自己存在感を高める取組を大切にしてきた学級経営で、自己有用感が育ってきているのだと思います。

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に対し、「当てはまる・どちらかといえばあてはまる」と答えた本校の児童は約94%でこちらも全国の値を大きく上回っていました。タブレットを活用し日々の学習の中で友だちと意見を交流し、違いがあるからこそより考えを深めることができると気づいているのだと思います。

自分にはよいところがありますか

当てはまる	どちらかといえば当てはまる
どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
本校	59.6
京都府	42.2
全国	42.6

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

当てはまる	どちらかといえば当てはまる
どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
本校	55.3
京都府	30.9
全国	32.0

○全体を通して本校の成果と課題

「確かな学力を身に付け、育てたい資質・能力の育成を目指したカリキュラムデザイン～子どもに『3Motto』を育てるためにゴールを明確にした授業改善～」という研究主題のもと、各教科で学習し身に付けた力を生活科や総合的な学習で発揮できるよう取組を進めています。「もっと相手に理解してもらうためにはどうすればよいのだろう」という気づきから、児童が「何が必要か」「そのためにはどのようにして調べるか」など自ら学習に主体的に関わる姿を目指しています。話し手の伝えたいことの中心を的確にとらえながら聞く力や時間の中で解答できる基礎基本の読解力・計算力などの課題に対しては、自らが学習に向かえるような毎時間の授業や毎日の家庭学習を大切に積み上げていく必要があります。確かな学力が身につくよう今後も学校と家庭が協力し合って、子どもたちの学習を支えていきたいと考えています。

○学校運営協議会より

9月20日に開かれた「第2回学校運営協議会」では、全国学力学習状況調査の結果や学校の近況について話し合いました。自ら学ぶ力をつけるためには、いろいろなことに関心・疑問をもって、自分で解決する経験を大切にしてほしいというご意見や、聞く力をのばすためにはメモを取りながら話を聞くことが大切であるというご意見をいただきました。また、ICTの活用によって話す以外にも自分の意見を伝える場ができ、他者の意見を知る機会が増えているので今後も取組を進めていただきたいという意見や、読書は豊かな感性を育む大切なものが活字離れが心配であるので、周りに本がある環境を大切にしてほしいというご意見もいただきました。